

地域課題検討会からの提言について

本提言書は、令和6年度から市内各地域において把握された地域課題を分類・整理し、施策への反映を目的として実施している「1. 5層会議（地域課題検討会）」の検討結果を基に、作成したものであります。昨年度の高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会において報告いたしました「施策に反映させる必要がある地域課題」について、今年度はその内容をさらに深掘りし、具体的な施策への展開を見据えた検討を重ねてまいりました。

地域課題検討会には、地域包括支援センターのセンター長、社会福祉協議会及び地域包括支援センターの生活支援コーディネーター、介護予防推進センター職員、市職員が参画し、市内全域を対象とした課題の抽出と整理を行っております。

本検討会で整理した市内全域の地域課題については、今後の施策検討に向けて本協議会でご議論いただくべき内容であると考えております。つきましては、次のとおり提言として取りまとめましたので、ご検討をお願いいたします。

課題1：孤立を防ぐための地域連携の強化と見守り体制の充実

項目	内容
背景	高齢者の一人世帯が増加。75歳以上の高齢者が増えることで、孤立や孤独死のリスクが高まる。
課題の深掘り	孤立の要因は多面的： ・ 心理的要因（失敗へのおそれ、あきらめ） ・ 社会的要因（知人減少、自治会未加入） ・ 生活環境の変化（外出機会の減少） ・ 身体的要因（身体能力低下、要介護）
施策の方向性	・ 地域の中で「役割」を持てる仕組み【送迎ボランティア等】 ・ 自治会や民生委員との連携強化【防災イベント等】 ・ ICTを活用した見守り【センサー、アプリ等】 ・ 地域包括支援センターの機能強化【マンション管理組合との連携等】
期待される効果	地域とのつながりを持てる仕組みを構築し、支援が必要なときに孤立しない体制を整備。また、関係機関との連携を強化することによる高齢者の見守り体制が強化される。

課題２：高齢者の実態把握と生活環境を悪化させないための仕組みづくり

項目	内容
背景	課題が複雑化・重篤化する前に支援につなげる必要がある。生活環境の悪化はフレイルや寝たきりにつながる。
課題の深堀り	・ 人材不足 ・ サービスの選択肢が少ない ・ 家族機能の脆弱化 ・ 個人情報への壁 ・ 関係機関の認知不足 ・ 介護予防事業の普及不足
施策の方向性	・ 地域ケア会議の活用による情報共有【地域支援連絡会等】 ・ 多職種連携（医療・福祉・行政）【自立支援の概念共有】 ・ 住民主体の見守り活動【ラジオ体操、子ども食堂等】 ・ 個人情報ガイドライン整備【研修・ガイドブック】 ・ 介護予防啓発（広報、イベント）【各地域のイベント開催、移動販売との連携】
期待される効果	「誰をどう見守るか」がイメージできる仕組みを構築し、早期支援につなげる。

課題３：認知症の方への理解の促進と支援方法の検討

項目	内容
背景	認知症への理解促進と、孤立防止・支え合いの仕組みづくりが必要。現行施策の効果検証も重要。
課題の深堀り	・ 認知症への理解不足 ・ 社会参加の機会が少ない ・ 認知症の方を受け入れる体制が不足している ・ 独居・孤立によるリスク
施策の方向性	・ 認知症サポーター養成講座の普及【若年層・商店街等への普及】 ・ 認知症カフェや交流の場の設置【当事者の受け入れの促進等】 ・ 地域での「気づき」から支援につなげる体制【チラシ・動画の作成】 ・ 本人の意思を尊重した支援（本人参加型ケア）【未来ノート、若い支度カレッジ】
期待される効果	認知症への対応方法を多くの人が理解し、効果的な支援につなげる体制を構築。

なお、これらの施策案につきましては、現行の府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第９期）における各事業との関連性を整理し、別紙にて示しております。

事業に直接該当しない部分につきましても、類似する施策との関連を踏まえ、可能な限り対応付けております。

何卒、ご高覧の上、ご検討賜りますようお願い申し上げます。